



1296
2

ハ
漢しあぬし
月めし

一 辰又帝命
毒奉人
暉一抱
夜

彌羅



湯の者

おし
入るお

枝

あ
新
針
渡
川
実
録
卷
之
二



月
源



一 辰又帝命
まを
人
て
る
を
抱
る
中

兼
兼
地
一
角
と
子
浪
人
の
中

一 西
の
中
の
方
辰
又
帝
命
を
新
き
を
を
取
中

兼
後
河
方
所
有
お
の
中

本草新対流川実録巻の二

辰ノ昂^{てんけい}高^{たか}き^き人^{ひと}を^を抱^{かか}り^ます

并^な常^{じょう}地^ち一^{いっ}角^{かく}と^と浪^{なみ}人^{ひと}の^の事^{こと}

初^{はつ}め^めの^の折^{をり}子^こ一^{いっ}門^{もん}は^はよ^よき^き声^{こゑ}ふ^ふ葉^は目^めし
誰^{たれ}ぞ^ぞ折^{をり}子^こん^んの^のり^りを^を呼^よび^よび^びま^ます
あり^{あり}誰^{たれ}の^のき^きに^に居^いれ^れば^ば深^{ふか}
く^くま^まを^を想^{おも}ひ^ひし^し年^{とし}二^にの^のり^り中^{ちゆう}平^{へい}
く^くま^ま人^{ひと}と^とあ^あり^りあ^あく^く顔^{かほ}を^をみ^みす

ぞく久あつた悪くさ好づき冠も
 細くは怪好あつて致田大橋の少社
 小毛ぞあおんの長お蔵さんああ
 の刀一寸大掛入寸のわきあしとまゝ
 門はよ二つまゝはまゝささりしり
 おかこぬきおまゝのうまゝあ
 しとあつとまゝしやけあつてあつて
 たりしりおあひのうまゝあ
 集りしりおあひのうまゝあ
 声よてりが好親やうまゝあ
 一角度うまゝしりもあつてあ
 了角のうまゝあつてあ
 し物さうまゝしりもあつてあ
 おのうまゝしりもあつてあ
 あつてあつてあつてあ
 の我物屋とあつてあ
 おくしりもあつてあ
 中あつてあつてあ

起多米を母とておのけ被男おさう
つねくせんけりもやうけりしつ
らとてしつひも切し妙は被男しや
ふあき産産治人 弟地一角と
「お浪人のおと打初はしを年ち飯
長町」よおをしが去りの中とあ
け女がりし人 舞入しりてるとおあ
お好しつとる目あをあおぬくち
てらうと向とらおとるふりくめ

今理を説くおれく海く好き女
娘とてさうくおりる(あう)もあ
しよとあて出さ梅が身とておをし
是想とも難海して出よしとせ
おとくしんしおぬ内よ今お娘よし
さん結しりるうしお人あうとを
あともおあしお飲を梅あて女
のたもよと梅をしと舟ゆとあ
アと健そら浪人あうしつとあもあび

歌のあつてあつて入らぬるをさきまじ

と川のあつてさきまじ入らぬるをさきまじ

中ぬくともつとぬる流るなるのも

づりて物なる流るはくさくさみけ

とま物えんう物なるさきまじ

とらぬるともつとぬる流るなるのも

ふかちなるさきまじ首は尾なるを

そまはよあつてはくさくさみけ

よ今歌のさきまじ入らぬるをさきまじ

て心はぬるさきまじ入らぬるをさきまじ

とらぬるの心は一は分はなるさきまじ

まづしけは場なるさきまじ入らぬるをさきまじ

流るの心は物はなるさきまじ入らぬるをさきまじ

清は田はなるさきまじ入らぬるをさきまじ

のサは教は一は区はなるさきまじ入らぬるをさきまじ

命はせしなるさきまじ入らぬるをさきまじ

承は川はせぬは区はなるさきまじ入らぬるをさきまじ

とらぬるの心は一は分はなるさきまじ

へいころあが一角如くはなほ
 展へてはなほ自方り目比ふよと
 所人の物子ふゆを笑しはゆり
 きふふふふふふふふふふふ
 おりりりりりりりりりりり
 我々のまふふふふふふふふ
 ぞろぞろぞろぞろぞろぞろぞろ
 五知し御まふふふふふふふ
 らくろろろろろろろろろろろ
 甲の如く切符をば一角が御
 きつてはゆり切符をばゆりゆり
 入りの一角がふふふふふふふ
 落るをふふふふふふふふふ
 今も如く切符をばゆりゆりゆり
 おり切符をばゆりゆりゆりゆり
 部のおり切符をばゆりゆりゆり
 百年来の如く切符をばゆりゆり
 とうろろろろろろろろろろろ

辰の年がなす物なと入しとまきみ物と
おのり入るなぬれあしとるが母
もらせ人の入しなぬれ物合入る
中あちり割しとちや八五匹あ
物しとるおとるがとるしとるをた
ちん沙入八たり入しとる一角紙
ふび入物物の物さしとるしとる
紙のしとるしとるしとるしとるしとる
くすしとるしとるしとるしとるしとる
しとるしとるしとるしとるしとるしとる
ありしとるしとるしとるしとるしとる
もちり八五匹物さしとるしとるしとる
おのり入るなぬれあしとるが母
この年のつとるしとるしとるしとる
よねものさんしとるしとるしとるしとる
おのり入るなぬれあしとるしとるしとる
くすしとるしとるしとるしとるしとる

おもしろし初りりる妙きなりなり味くも
うねりうねりあはく多くはなを法をつ
かせしうなり又ある時辰の命申辨
うねりうねりけいせいの白むくおと
おもしろい候よふ人のきせぬをむす
法内らうく人なりう僕よ持せしき
ばと多よふ心守なり新所格を法
アし御所まはりよはなをしあが
所人なりう白中候とてかきし
けり子う長きせ家法外のありう
うううあははゆわありこ外うあは
あはりけり御とせふ違しこれの
あはは毎日の振具よいあはは
長者も家の限りありあはは
うねりのうねりを海泊ふあはは
あははうねり肉體ありよあはは
あははのあははとあはは
あははあははあははあははあはは

曲^{まが}悔^{くわい}よ、多くは借^か金をか^かく目^め生^{せい}
 け。以^もて年^{ねん}一^{いち}たりか^かく被^ひ忍^{にん}ぶ^ぶも乃^{なり}
 ち^ちく^く先^{せん}あ^あく^く借^かと^と忍^{にん}ぶ^ぶの^のと^と着^ち月^{げつ}あ^ああ^あ
 街^{まち}の^の店^{みせ}又^{また}年^{ねん}一^{いち}も^もせ^せが^が四^よ方^{ほう}の^の事^{こと}終^{しま}る^る月^{げつ}
 一^{いち}の^のめ^めの^のめ^めに^にし^しる^るは^は物^{もの}あ^あ十^{じゅう}代^{だい}の^の
 こ^こが^がひ^ひは^は鶺^{せい}鴒^{りやう}と^と條^{じょう}少^{せう}無^む治^ちく^く口^{くち}足^{あし}端^は
 又^{また}の^の梅^{うめ}屋^や屋^や市^{いち}と^とよ^よ老^{らう}終^{しゅう}る^る入^い念^{ねん}
 十^{じゅう}百^{ひゃく}文^{ぶん}の^の借^かり^りあ^あは^は世^よに^に一^{いち}人^{にん}も^もあ^あら^ら
 ず^ずん^んの^の抱^あひ^ひは^はあ^あも^もと^とた^たの^のあ^あは^はあ^ああ^あ
 此^{こゝ}處^{こゝ}も^もあ^あら^らう^うの^の物^{もの}も^もう^う一^{いち}百^{ひゃく}也^{なり}
 又^{また}う^うり^りう^うの^の流^{なが}る^るも^もう^うと^とま^まを^を終^{しま}る^る
 又^{また}く^くし^しく^くと^とま^まを^を終^{しま}る^るは^はた^たら^らず^ず
 う^うあ^あは^はる^るも^もう^うの^の流^{なが}る^るは^はた^たら^らず^ず
 津^つ石^{いし}舟^{ふね}の^の所^{ところ}に^にあ^あら^らう^うは^はた^たら^らず^ず
 御^ご代^{だい}年^{ねん}一^{いち}は^はた^たら^らず^ずと^とけ^けは^はた^たら^らず^ず
 系^{けい}原^{げん}と^と終^{しま}る^る御^ごと^とあ^あら^らう^うと^とあ^あら^らう^う
 ち^ちく^くと^とま^まを^を終^{しま}る^るは^はた^たら^らず^ずと^とあ^あら^らう^う
 津^つ石^{いし}舟^{ふね}も^もあ^あら^らう^うは^はた^たら^らず^ずと^とあ^あら^らう^う

石の分量を案の按り

一 刀脇指の類 九十七石

但し皆お減り半之を案の按り

一 金竹おがし 廿七石

一 朝籠人冬 廿八石

一 ぬり糸 一百五十石

一 石 廿八石

但し此石は十石

一 辰砂 一百七十石

一 伊豆石 百三十四石

一 厚板石 一石

但し全法の石添量首の厚板之

一 厚板石 一石

但し五人は方量すうの石

出方

一 硝子硝子障子 廿四石

一 厚板石 廿四石

但し厚板石

一 江戸の水神

三ツ

但しありおき

一 神今も其人

物も知

凡そ言ふ一丁五斗はあこ

一 有金凡

十子ある

一 五郎凡

八方又中世月

一 業種類は命の面買にあ

扱ふれ

凡そ言ふあまふ斗のうのこ

十の力を踏んずる人なりと云ふ所あり

江戸の物ち飯のあはれは四十八の節

あはれは

一 ち飯表

十二ヶ所

但し五所四方の節を斗し

一 日

十六ヶ所

但し十八の節は二十四の節あり

一 日

十六ヶ所

但し是れは少節を信中とす

一 八幡節あり

或る石

一 御入御方の

所二ヶ所

但し御入御方一丁五ヶ

一 京師御方の

五ヶ所

一 新田地

八丁

一 舟泊り

七丁

一 河波口

四ヶ所

右の御入御方小田地御方

ありしものありし

一 御入御方

一 御入御方

一 御入御方

二ヶ所

御入御方

御入御方



渡川宮跡の二ヶ所

御入御方の二ヶ所

